

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
学長選考・監察会議（令和5年度第4回）議事要旨

- 1 日 時 令和6年3月27日（水）14：56～17：13
- 2 開催方法 オンライン
※奈良会場を設置
（奈良会場）奈良先端科学技術大学院大学 事務局3階 会議室
- 3 出席者 手代木、浅見、後藤、板東、藤沢、小谷、安本、別所、廣田、寶學の各委員
出席監事 西村監事、春本監事
陪席者 山本管理部長、蜂谷企画総務課長
- 4 配付資料
資料1 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
学長選考・監察会議（令和5年度第3回）議事要旨（案）
資料2 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学学長選考・監察会議規程
の一部改正について
参考資料2 教育研究評議会構成員の見直し
資料3 学長の任期3年目（令和5年度）の業務執行状況について
参考資料3－1 学長の業務執行状況の確認方法
参考資料3－2 学長、監事等に対するヒアリングの実施時期及び手順
参考資料3－3 中期計画進捗状況一覧（令和5年9月末時点）
参考資料3－4 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学学長候補者抱負
参考資料3－5 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学学長選考基準
参考資料3－6 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学中期計画
参考資料3－7 学長ビジョン2030
資料4 学長候補者の選考（再任審査）のスケジュール
参考資料4－1 学長の再任審査に関する規定
参考資料4－2 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学長の業務執行状況の確認
結果について（令和3年度）
参考資料4－3 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学長の業務執行状況の確認
結果について（令和4年度）

5 議 事

- (1) 学長選考・監察会議（令和5年度第3回）議事要旨の確認について

手代木議長から、資料1の学長選考・監察会議（令和5年度第3回）の議事要旨（案）
について、委員による確認が済んでいることの説明があり、審議の結果、原案のとおり

承認した。

(2) 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学学長選考・監察会議規程の一部改正について

手代木議長から、資料2に基づき、令和6年4月1日付けで本学教育研究評議会評議員の構成について見直しが行われることに伴い、学長選考・監察会議規程を改正する必要がある旨の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(3) 学長の任期3年目の業務執行状況について

手代木議長から、資料3に基づき、塩崎学長の任期3年目（令和5年度）の業務執行状況の確認の方法について説明があった後、西村監事及び春本監事に対するヒアリング並びに塩崎学長に対するヒアリングを実施した。

審議の結果、塩崎学長の任期3年目（令和5年度）の業務は適切に執行されていることを確認し、参考資料3-1「学長の業務執行状況の確認方法」の定めに基づき、業務執行状況の確認結果の通知及び公表の手続を進めることとした。

主な内容は次のとおりである。

【監事に対するヒアリング】

西村監事及び春本監事から、学長の業務執行状況について、塩崎学長の下で本学がより良い方向に変わっており、学長候補者選考時において学長候補者抱負に掲げた項目を着実に実行していることから、極めて良好であるとの見解が述べられた。

最も評価すべき点として、昨年度より続く厳しい財務状況に対し、財務検討ワーキンググループを直ちに立ち上げて検討を行い、予算の見直し等を迅速に実施したことが挙げられた。

また、その他に評価すべき点として、昭和女子大学及び京都女子大学との推薦入学協定の締結により女子学生の確保に努めていることや、生駒市との粘り強い交渉により、認可保育所としての学内保育所の設置決定を実現したこと等が挙げられた。

一方、女性教員の在籍数と採用数が依然低迷しており、中期計画の目標も達成できていないことから、女性教員採用の方策について一層の工夫と努力を期待する旨の発言があった。また、本学で育ててきた優秀な女性教員が他機関に異動するという事例もあり、その原因の分析と対応方法について検討を行ってほしいとの発言があった。

(質疑応答) ○：学外委員 ●：監事

○塩崎学長は意思決定のプロセス等、学内の文化的な改革を行っているが、歪みは生じていないか。

●現在の運営方法で上手くいっていると思う。

○本学は依然として全国的に知名度が低いことから、広報において塩崎学長の尽力が不足しているのではないか。

●大手広告代理店出身者を特任教授として採用する等して広報活動に注力し、以前と比べれば知名度は上がってきていると感じている。

(学外委員からの意見)

- 他機関に異動できるレベルの女性教員が多いというのはむしろ誇るべきことである。また、異動した女性教員と連携して研究ができれば、ジェンダーバランスの向上という観点で評価できる。中期計画の評価指標を柔軟に設定できれば教員にとっても大学にとってもよいのではないか。

【学長に対するヒアリング】

当日共有資料に基づき、令和5年度に実施した具体的な取組等について、塩崎学長から説明が行われた。

(質疑応答) ○：学外委員 ●：学長

- 十数年前は人気のなかった情報系の学生が引く手数多になっている一方で、バイオ系の学生の市場が狭まってきているといったように、社会状況は変わっていくものであるが、この点についての対策は講じているのか。
- 研究科の統合によって、各分野の学生数を柔軟に変更できるようにしたことが、社会のニーズの変化への対応に繋がっている。その中で、数年前、本学のバイオ系の修了生が多く就職している企業にアンケート調査を行ったところ、バイオ系人材のニーズ自体は下がっているわけではなく、専門とする分野に加えてプログラミングやデータ解析等の能力を有する、又は拒否感のない人材が求められていることがわかったため、バイオ系の学生に対し、情報系のスキルの拡大を図っている。
- 入試の女子枠については検討しているのか。
- 一度検討したが、数年前に文部科学省に相談したところ、反応があまりよくなかった。また、学生との懇談会において女子枠について意見を伺ったところ、女子学生から「女子枠は屈辱的である」といった非常に否定的な意見が出されたため、女子学生獲得については、本学としては違ったアプローチをとり、当面は女子大学を対象とした推薦入学制度という形で取り組んでいこうと思っている。
- 女子学生のキャリアイメージやキャリアパスの形成について、どのような施策を実施しているか。また、学びの成果を今後どのように評価するのか。
- 産業界で理工系人材が求められていることから、女子学生のキャリアパスの形成が重要になってきている。学内で企業説明会を実施したり、理系新卒採用を支援する民間のサービスを利用したりすること等により、学生と企業との交流を行う取組を進めているため、キャリアパスがイメージしやすい環境になってきていると思う。また、学びの成果については、従来から修了者アンケートや企業への聞き取りにより把握しているが、推薦入学協定により受け入れた女子学生についても、同様に把握していきたい。
- 今後は多様な社会人に対する教育が重要になってくると思われる。そのためには、学びやすい履修形態の提供やITの活用、企業との連携が重要になってくると思われるが、この点についてどのように考えているのか。
- 現状、博士号を取得する学生のうち2割弱は企業に在籍している方であるため、社会人の再教育という意味では一定程度実績がある。また、社会人の受入れを促進するた

めの新たな方策として、共同研究の規模等に応じてその企業からの学生の学費を減額するような新たな推薦選抜制度を検討している。ただ、企業の役員からは「大学院で学ばせたい」との話をよく聞くものの、現場では「人が抜けたら困る」との反発があるため、仕事をしながらも学びやすい履修形態を構築していきたいと考えている。

(学外委員からの意見 (学長退席後))

○塩崎学長は、関西経済連合会等の集まりに積極的に参加し、産業界との交流を進める等、非常によい活動をしている。

(4) 学長の再任審査実施の可否について

手代木議長から、資料4に基づき、令和7年3月末で塩崎学長の任期が満了するため、過去3年間の業務執行状況に対する確認結果等を踏まえて再任審査実施の可否を決定する必要がある旨の説明があり、審議の結果、再任審査実施可と決定した。その後、手代木議長から、再任審査に係る手続の今後のスケジュールについて説明があり、塩崎学長から再任の意思が示された場合は、再任審査の手続を進めることとした。

以上